

第2章 三好市の特徴と課題

2.1 三好市の特徴

2.1.1 自然的特性

本市は、徳島県の西端にあり、西は愛媛県、南は高知県、北は香川県に接して四国のほぼ中央に位置しています。

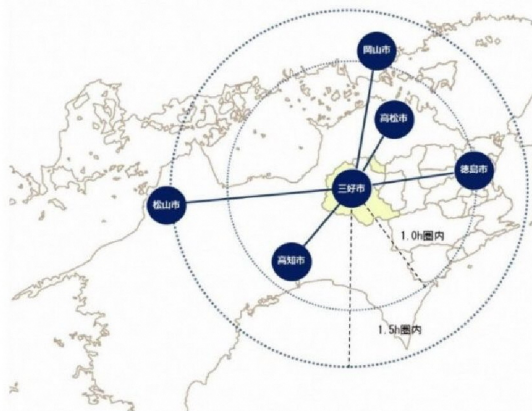
面積は721.42km²で、市町村では四国一の広い面積を有し、徳島県の17.4%を占めています。市域の大部分は丘陵並びに山地となっており、可住地は吉野川の沿岸部とその支流の谷合に点在しており、その面積は13.0%と低く、ほとんどが急峻な山地で形成されています。

四国三郎（しこくさぶろう）の異名を持つ大河吉野川が中央を通り、大歩危峡や黒沢湿原、紅葉の名所の竜ヶ岳、四国第二の高峰である剣山といった豊かな自然・名勝を有し、自然が織りなす四季折々の独特な風景は、日本でも屈指の美しい景観を形成しています。

2.1.2 交通上の特性

本市における鉄道の状況は、東西方向にJR徳島本線が国道192号線と並行し、南北方向にJR土讃線が国道32号線と並行して走っており、池田地域にあるJR阿波池田駅が2路線の重要な乗換駅となっています。

また、主要な幹線道路としては、東西に連絡する国道192号線、主要地方道鳴門池田線、徳島自動車道、南北に連絡する国道32号線があり、古くから四国中央地域の交通の要衝となっています。なお、2020年度の開通が予定されている新猪ノ鼻道路（国道32号線）は、延長の80.0%がトンネルとなるため、異常気象や積雪時の通行、救急搬送ルートの確保など、安全・安心な人・物の流通向上が期待されています。



出典：生涯活躍のまち構想・基本計画/三好市
四国中央地域における交通の要衝

2.1.3 観光的特性

本市は、剣山山系を源とする祖谷川の源流から吉野川上流域までの広域なエリアで形成されており、自然公園として北部と中部の山脈沿いに「剣山国立公園」並びに香川県境一带に「箬蔵県立自然公園」、高知県境に「野鹿池山自然環境保全地域」が徳島県により指定されています。

剣山国立公園には、渓谷の美しい急流で有名な大歩危・小歩危渓谷をはじめ、祖谷渓谷、剣山、三嶺などの観光拠点が含まれており、近年では、本市を訪れる外国人観光客も増加しています。

祖谷のかずら橋、大歩危・小歩危渓谷の遊覧船、うだつのまち並み、東祖谷山村落合伝統的建造物群保存地区、剣山には、春から秋にかけての観光シーズンを中心に多くの観光客が訪れています。また、市街地中心部で開催される「いけだ阿波踊り」等の伝統的な催しが充実し、井川地域南部の腕山スキー場、大歩危・小歩危渓谷のラフティング、剣山登山、急峻な山岳コースのなかで行われるサイクリングイベント「ツール・ド・にし阿波」の開催など、観光・スポーツ体験のまちとしてもにぎわっています。

また、ウォータースポーツのまちを目指すなか、2017（平成29）年には日本初となる「ラフティング世界選手権2017」が開催され、2018（平成30）年には「ウエイクボード世界選手権大会2018」が開催されました。



出典：生涯活躍のまち構想・基本計画/三好市

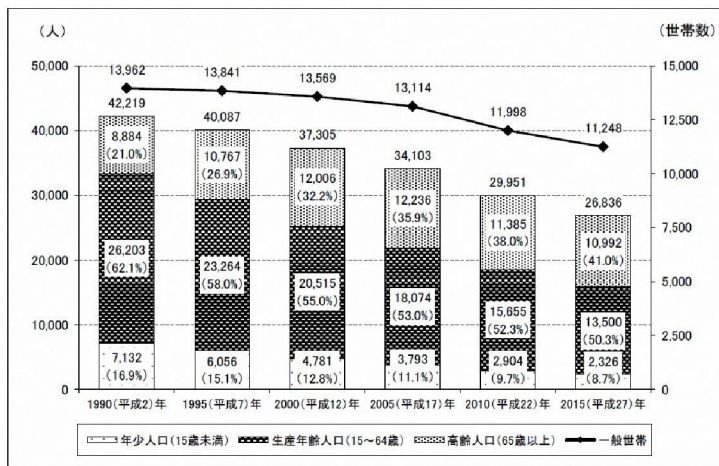
2.1.4 都市的特性

本市は、古くから三好地域における政治・経済の中心地であり、現在においても県西部の中核として銀行、スーパー、商店街やバスターミナルなどの都市機能が集積しています。

さらには、地域医療、救急医療の中核となる県立三好病院をはじめ、市立三野病院など充実した医療機関があるとともに、高齢者に優しい施策や充実した子育て施策などハード・ソフト両面において、暮らしやすく利便性の高い、定住や移住に適したまちづくりが進められ、近年では移住者も増加してきています。

2.1.5 人口・世帯数、就業構造の特性

本市の総人口は、2006（平成18）年の市発足以降減少を続け、国勢調査結果によると2005（平成17）年の34,103人から2015（平成27）年の26,836人と大幅に減少し、高齢化率も2005（平成17）年35.9%から2015（平成27）年41.0%と増加し、人口減少、少子高齢化が進んでいます。

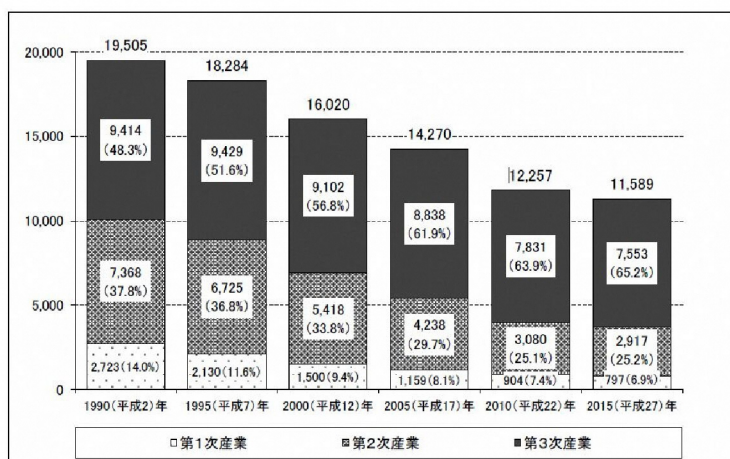


(単位：人、世帯数)

出典：第2次三好市総合計画/三好市

また、就業者人口は、減少を続けており、国勢調査結果によると2005（平成17）年の14,270人から2015（平成27）年の11,589人と大幅に減少しています。

産業別にみると、第2次産業、第3次産業において就業者数の減少が大きくなっていますが、第3次産業の構成割合は65.2%と伸びてきています。



(単位：人)

出典：第2次三好市総合計画/三好市

2.2 三好市を取り巻く情勢と環境

2.2.1 人口減少・超高齢社会の進行

本市の総人口は、大幅に減少しており、人口減少、少子高齢化という喫緊の社会課題に重点的・継続的に取組み、持続性を確保していく必要があります。

2.2.2 産業・経済のグローバル化

日本の原風景が広がる祖谷地域などを訪れる外国人旅行者が増加している状況にあります。今後は「東京オリンピック・パラリンピック」、「関西ワールドマスタースゲームズ 2021」などの開催を受け、国内外の旅行者の増大が見込まれ、国際的な観光地としての受入環境の整備や体制を整えることに加え、観光を中心とした産業面での経済波及効果が得られるように取組む必要があります。

2.2.3 地球環境との共生

本市は、豊かな自然環境を有するまちであり、自然環境や自然景観の保全は本市の優先すべき課題の一つとなるため、ごみの減量化や分別収集、景観条例の施行などに取組み、環境の質の向上を目指した循環型社会の実現を進めていく必要があります。

2.2.4 ICTの進化とライフスタイル

地域経済の活性化、社会保障費の増大、大規模災害対策などに対応するため、社会の様々な分野（農林業、観光、医療、教育、防災など）におけるICTやAI・ロボットの効果的な利活用が不可欠です。

2.2.5 大規模な自然災害への対応

東海・東南海・南海の地震連動や中央構造線・活断層地震が危惧されていることに加えて、近年にも豪雨、土砂災害、豪雪などに見舞われていることから、自然災害への防災・減災対策は重要な施策として取組む必要があります。

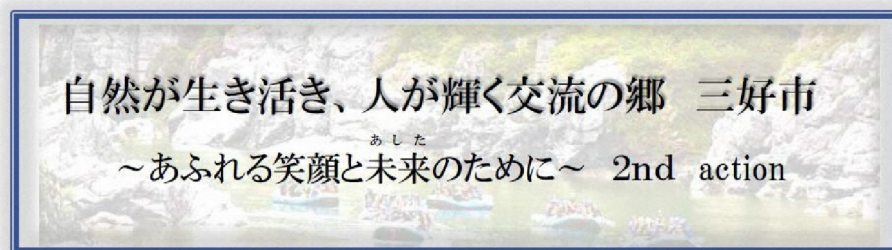
また、被災時の迅速な対応や復旧に向けて、他自治体と相互の支援協力や連携強化への取組みが必要です。

2.1.5 持続可能な地域づくり

人口減少により共助の担い手不足の進行、地域力の低下、空き家の増加などの地域課題を抱えており、日常生活における移動手段の確保など定住促進に向けた施策に取組むことで、持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。

2.3 まちづくりの基本理念

三好市における様々な特色を踏まえ、次のまちづくりの基本理念を第2次総合計画全体に浸透させ、長期的な展望に立ったまちづくりを進めています。



自然が生き活き（人に誇れる故郷づくり）

本市の抱える豊かな自然、多くの歴史文化遺産、恵まれた観光資源などを新しい発想で見直し、新たな創造のもと「自然と人が生き活き」と暮らしていけるまちづくりを目指します。

人が輝く（活力ある故郷づくり）

住民と行政が心をつなげた地域づくりを推進し、「自らの地域は自らの手で」を活動方針とし、住民一人ひとりが生き活きと輝く協働のまちづくりを目指します。

交流の郷（第二の故郷づくり）

地方での^{*}スローライフを楽しむ「自己実現型」のライフスタイルが求められているなか、新たな定住と交流を育み、本市全体の活性化につながる交流の郷づくりを目指します。

出典：第2次三好市総合計画/三好市

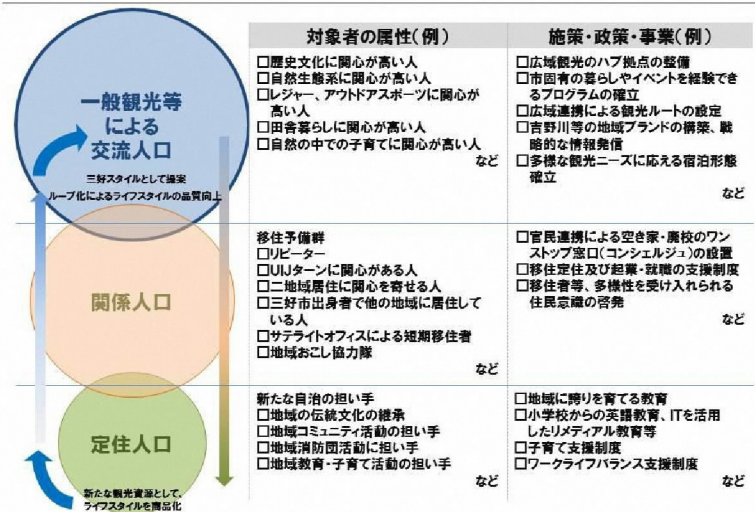
まちづくりの基本理念

2.4 三好市の取組み

2.4.1 三好市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2040年の市の人口目標である14,000人超の確保（三好市人口ビジョン）に向け、国の基本方針に基づき「自然増」と「社会増」の両面から様々な施策を盛り込んだものです。三好市の将来像として「訪れてよし・触れてよし・住んでよし」笑顔創生・三好を掲げ、官民が連携して地方創生を推進することとします。人口減少への対応には、転出者を抑制し転入者を促進させることにより、人口減少に歯止めをかけ、将来的に人口構造の適正化と、持続可能なまちづくりを推進することが重要であり、「働く場を創る」「ひとを呼びこむ（人の流れ）」「結婚・出産・子育ての希望を叶える」「安心なくらしを守り、地域をつなぐ（まちづくり）」「未来に「ツケ」を残さない（財政健全化）」の重点プロジェクトに積極的に取り組むこととしています。

交流人口⇒関係人口⇒定住人口への移行イメージ



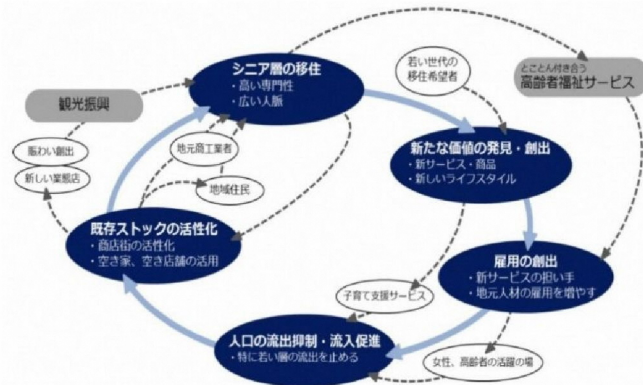
出典：三好市まち・ひと・しごと創生総合戦略/三好市

三好市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2.4.2 生涯活躍のまち構想

都市圏等に住む40歳以上（50代のプレシニアを中心）を対象とした自らの知識や経験、ノウハウにより三好市での活躍を希望する移住希望者を主たる対象として、①「移住希望者」の自分らしいライフスタイル実現を支援し、②移住希望者を「受け入れる地域」が抱える課題の解決を図り、③「三好市全体」の地域力向上、持続可能なまちづくりを実現する「三方（移住希望者、受け入れ地域、三好市全体）よし」の取組みを実践していきます。

移住希望者は、多様な形態をもちながら本市に関係し、既存市民と交流し協働するなか、新たなサービスやライフスタイルの発見・創出に取組む。この取組みが雇用の創出を生み、その雇用の創出が人口流出の抑制や人口の流入を促進する。そして、人の流れを呼び込むことで、地域資源を活用した新たな付加価値の創出につなげる好循環の確立を目指します。



出典：生涯活躍のまち構想・基本計画/三好市

生涯活躍のまち構想の好循環サイクル